

Bon dia !



NO. 2

○ ブラジルのコーヒーはおいしい！？

「ブラジル」と言えば、どんな国！？ 「サッカーとコーヒーの国…。」

遠い地球の裏側の国について知っていることは本当に少ない、ここで生活をしていて、心底そう思います。ブラジルは誰もが知るコーヒーの原産地です。ブラジル人は、毎日おいしいコーヒーを気軽に飲んでいると思いきや…。実は、本当においしいコーヒーは、大部分が輸出用に他国に送られてしまい、残った2番目、3番目ぐらいにおいしいコーヒーが、私たちが普段飲むコーヒーとして売られているそうです。私自身は、とてもおいしく飲んでいますが、「本当は、もっとおいしいコーヒーがあるんだよ。」なんて言われると、少し悔しい気持ちになります。ブラジルでのコーヒーの飲み方は、日本とは少し違った飲み方をします。一つは、コーヒー茶碗の大きさです。日本では、一般的に大きなマグカップにたくさんのコーヒーを入れて飲みますが、ブラジルで使われるカップはとても小さく、2~3口ぐらいすすると、すぐに空になってしまいます。コーヒーの味は、日本で飲むよりもかなり濃く、最近は慣れましたが最初の頃はお湯で薄めないと飲めないぐらいでした。ブラジル人は、この小さなカップに入った濃い味のコーヒーに、信じられないぐらいの量の砂糖を入れて飲みます。さらに、コーヒーと一緒に砂糖たっぷりの甘いケーキやクッキー（こっちのお菓子は、何を食べても信じられないぐらい甘いです！！）を食べたりすることもあります。街にはいたるところにBAR（バール）という喫茶店があり、ブラジル人は、外出中に何度もBARなどに立ち寄り、コーヒーを楽しむそうです。そして、日本人のコーヒーの楽しみ方と決定的に違う点、それは「アイスコーヒー」がないことです。一度、ブラジル人に日本では暑い日には、コーヒーを冷やして飲み、暑い日に飲むと最高においしいよ、と紹介すると、眉をひそめて「信じられない！」と言われたことがあります。そして「あなたたち日本人は、暑いからと言って、味噌汁を冷やして飲みますか？」と言われました。その話を聞いて、なるほど…、と思わず納得していました。



ブラジルによく見られるコーヒー茶碗（左側）

○ ピバ！ コッパ・ド・ムンド！

今年は、4年に一度のFIFAワールドカップ（ブラジルでは、コッパ・ド・ムンドといいます。）開催の年。こんな素晴らしい年を「サッカー王国」ブラジルで過ごすことができるとは、なんて幸せなことでしょう！！とは言っても、身の危険（！？）を感じてしまうほどの熱狂ぶりには、驚かされるとばかりです。ブラジル代表の試合の日は、朝から街の空気が張り詰めています。突如、何の予告もなしに「ドン！」という大きな花火の音が鳴り響くと、次々に色々な方角から、連続して花火の音が聞こえてきます。まるで、日本の運動会の早朝を思い出しますが、驚くのは、その花火は試合が終わるまでのほぼ一日中、鳴り続けるのです。ブラジル人は、代表の試合がある日は、ほとんどの人が仕事を休みます。これは、ブラジ



W杯用に飾り付けされた自宅近くの通り

ル人にとっては、常識的な行動なのだと思います。現地の学校も、休校にしたり、時間を短縮（午後から放課など）したりしながら、試合の時間に授業をしないようにしています。そんな状態で、ブラジル代表の試合の日は、街中のお店のシャッターが閉まり、リオの街から車や人の姿が消えます。私たち日本人学校も、ブ



日系協会で試合観戦するブラジル人

ラジル代表の試合開始時刻が学校の運営されている時間と重なったときは、治安の関係上、時間を早めて下校させるときもありました。試合が始まると「ウォー」という大きな歓声とブブゼラ（サッカーの試合応援用の笛）の大合唱が始まります。なかなか得点が入らないときは、彼らのイライラした気持ちを表現するかのように、「ドン！」という花火になります。そして、得点が入ると、ボルテージは最高潮になります。一斉に「キャー！」「ウォー！」という大きな声とブブゼラの音、何発もの花火が鳴り響きます。マンションの窓からは大量の紙吹雪が舞い散り、「エバー！！（やったあ）」という叫び声が響き渡ります。そして、試合が

終わると人々は一斉に街に繰り出し、その日の試合の話に花を咲かせるそうです。普段はのんびりしていて、あまり細かいことに気を止めないはずのカリオカたちも、ワールドカップの開催期間は人が変ってしまいます。試合の結果によっては、治安にも大きく影響すると聞いていたので、開催期間はなるべく外出を控え、安全に配慮しながら生活していました。そして、迎えた運命の準々決勝、対オランダ戦。ブラジル代表は惜しくも敗れ、2010年ワールドカップは幕を閉じました。しかし、「これで街のようすは元に戻る！？」と思いまして、人々のサッカー観戦はまだ終わってはいませんでした。街のBARにはいつも通りの人ばかり、店の大型テレビの前に集まり、サッカー観戦をしています。もちろん、今度は「アンチ・オランダ」として、オランダ代表の相手となるチームの応援をしています。当然、決勝戦はスペインの応援をしていたようです。

「サッカー王国ブラジル」は、やはり本物でした。日本人の私にとって、彼らの行動は理解しがたいことが山ほどありましたが、サッカーが生活の中心にあり、そして自国代表チームの応援にすべてを向ける彼らの表情は、とても幸せそうに見え、少しうらやましくも感じました。



コパカバーナビーチの巨大スクリーン